

平成 23 年 7 月 20 日 (水)

江田けんじの衆議院予算委員会質問関連記事抜粋

平成 23 年 7 月 21 日 (木) 神奈川新聞 (朝刊) 3 面

衆院予算委
原発コスト再検証へ
江田氏
質問 経産相が方針示す

海江田万里経済産業相は 20 日、電源立地交付金や賠償などの費用を含め、原子力発電のコストを再検証し、公表する方針を示した。衆院予算委員会で、みんなの党の江田憲司幹事長（8 区）の質問に答えた。

菅首相は審議の過程で、「原発のコストに今回の事故などは想定していなかった。これまで言われた原発のコストは、現在の現実とは大きく違うと思う。再計算しないといけない」と答弁。

経産省資源エネルギー庁の調査会が 2004 年に出した電源別発電コストの試算では、原子力の発電単価は火力や水力より安いとされている。

(渋谷 文彦)

江田氏はこれを受け、「今の原発のコスト、経産省調査会（が試算した）1 割当たり 5・3 円を見直し、研究開発費、電源立地交付金、賠償などの問題を含め、原発の真のコストを出すというところか」と質問。経産相は「原発のコストはしっ

発送電分離・核燃サイクル ▼首相「議論すべきだ」連発

脱原発 薄い中身

「脱原発」を打ち出した菅直人首相が、国会で具体性を欠く答弁を続けている。野党に具体策を問われると「議論すべきだ」と繰り返すばかり。実現に向けた具体策もいままま、唐突に考えを表明したツゲが回っているようだ。20日の衆院予算委員会では、個別の電力・原子力政策と「脱原発」の整合性を問われる姿も目立った。

「最終的に地球を救うのは地球は経ているが、原子力数十年。未来永劫、依存しは植物だ。46億年の歴史を」に依存してきたのはわずか、ていかなければ成り立たない

首相の「脱原発」、
具体論は？



菅直人首相

みんな・江田憲司氏

原発をゼロにする、廃止するという
ことではないか

将来のどの段階で、
どこまで進めるか、議論を進めていく
ことが必要だ

発送電分離なくして脱原発は
ないと思わないか

太陽光、風力など小規模なものを
集めていくには、いまのようなもの
がよいのか、予断なく議論して
いくべきだ

核燃料サイクル、再処理はやめる
というのが整合性ある結論だ

核燃料サイクルを従来の計画に
沿って進めるのか、見直すのか、
予断なく議論すべきだ

自民・斎藤健氏

ベトナムへの原発輸出は中止する
のか

外交手続きは現在進んでいる。
そのあり方について、きちんと
議論していきたい

20日の衆院予算委員会の質疑から

いとは思っていない」

菅首相は予算委で、江田憲司氏（みんなの党）から「将来は原発をゼロにするということではないか」と詰められると、地球の歴史を持ち出して答弁した。

江田氏が「言い方があいまいだ。国民が心配するのは時間軸。首相の見通しをきかせて欲しい」と「原発ゼロ」への覚悟を重ねて聞くと、首相は「将来のどういう段階、どういうところまで進めるか議論を進めていくことが大事だ」と述べるにとどめた。

具体的な政策論議でも同じ。例えば「発送電の分離」問題。電力会社から発電部門と送電部門を分離できれば発電部門への新規参入が増え、再生可能エネルギーの促進につながるなどの見方があり、首相の思い入れも強いテーマだ。

江田氏は「発送電分離な

くして脱原発はない」と挑発したが、首相は「太陽光、風力、水力、バイオマスと小規模なものを集めていくには、今のようものがいいの、予断なく議論していくべきだ」。

高木義明文部科学相が一時、高速増殖原型炉「もんじゅ」（福井県敦賀市）の見直しに言及した核燃料サイクルについても、首相は「従来の計画に沿って進めるのか、見直すのか。予断なく議論すべきだ。議論を本格的に始めるべきだと思っている」。議論の必要性を強調しつつも方向性は示さなかった。

首相がトップセールスで受注したベトナムへの原発輸出と「脱原発」の整合性も問われた。斎藤健氏（自民党）が「輸出を中止するか」と詰めると、首相は「外交手続きとして現在進んでいる」と現時点で中止する考えはないと表明しつつ、「こ」でも「そのあ

り方について議論して参りたい」とするのにとどめた。

首相は、原発依存度を高める内容の政府のエネルギー基本計画の白紙化を表明。玄葉光一郎国家戦略相が議長を務める「エネルギー・環境会議」で政権としてのエネルギー政策の見直し議論を始めたが、基本方

針がまとまるのは年末の見通し。まだ具体論を語る段階にはない。

首相は20日の予算委で原発の発電コストについて「（使用済み核燃料の）最終処分場の費用などを考えると、現在よりかなり高い方向で再計算しないといけない」と表明したが、具体的作業はこれからだ。